

山口情報芸術センター [YCAM] : 企画展

まなべ だいと いしばし もと
真鍋大度 + 石橋素 新作インスタレーション「particles (パーティクルズ)」

2011年3月5日(土) - 5月5日(木・祝) 10:00-19:00

[文化庁メディア芸術祭巡回企画展は、2011年3月5日(土) - 31日(木) まで]

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオB 入場無料

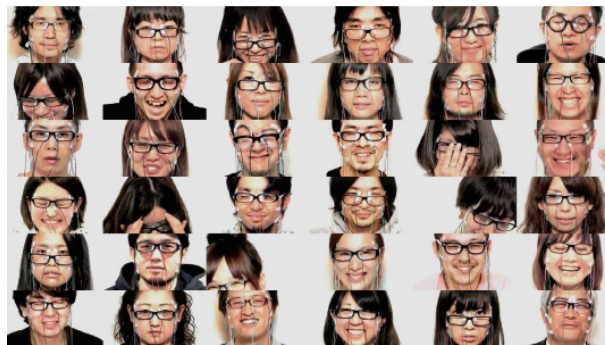
同時開催: YCAM長期展示シリーズ「scopic measure」

躍進を続けるクリエイター、真鍋大度+石橋素の活動を総合的に紹介する個展 メディアアートがもたらす、ユニークな発想と優れた技術を体験する展覧会

山口情報芸術センター[YCAM] では、アートからデザイン、広告、音楽に至る幅広い領域で、メディア技術を用いた多彩な活動をするクリエイター、^{まなべ だいと いしばし もと}真鍋大度と石橋素による新作を発表する展覧会「particles (パーティクルズ)」を開催します。

本展は、優れたメディア芸術の鑑賞機会を提供することを目的に、「文化庁メディア芸術祭巡回企画展」の一環として、YCAMと文化庁が共同で開催するものです。文化庁メディア芸術祭の受賞作家でもある真鍋大度+石橋素の新作を、YCAMがプロデュースして発表するとともに、第13回(2009)と第14回(2010)の文化庁メディア芸術祭の受賞作品の映像も上映。さらに、同時開催として、ユニークな発想と優れた技術で注目を集める彼らの代表作2作品も展示します。

リサーチや研究、実験を重ねながら、メディアアートの可能性を探求し、躍進を続ける彼らの活動を総合的に紹介する初の本格的な個展を通じ、テクノロジーがもたらす新たな表現、メディア芸術の魅力を体験してください。



[上]真鍋大度「electric stimulus to face」映像より
 [下]「親子で体験! デジタル×カラダ de ワークショップ」より (世田谷パブリックシアター、2009)

■ 内覧会

3月4日(金) 14:00-15:00

ウェブサイト <http://particles.ycam.jp/>

ぜひこの機会に、取材や記事掲載ご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ 山口情報芸術センター[YCAM] 広報担当: 廣田

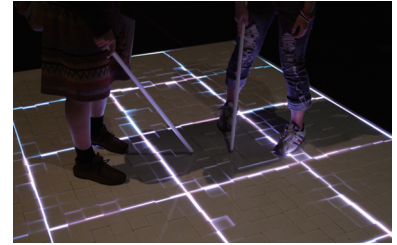
TEL: 083-901-2222 FAX: 083-901-2216 e-mail: information@ycam.jp

〒753-0075 山口県山口市巾着町7-7 <http://www.ycam.jp/>

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。

まなべ だいと いしばし もと
真鍋大度+石橋素ー ハイブリッドな活動が生み出す、新たな領域

アーティスト、デザイナー、エンジニアとして、多彩な領域で常にアクティブな活動を繰り広げる真鍋大度と石橋素。YCAM委嘱作品の滞在制作においても、プログラマーやエンジニアとして参加し、一方では、企業の情報サービスやソリューションに関わる大規模なプロジェクトも数多く手掛けています。彼らのユニークな発想と優れた技術は、オリジナルデバイスの開発、インターフェイスの構想、プログラミングを用いたシステムの考案など、メディアアートの更なる可能性を拓くとともに、商業空間の演出や産業開発を通して、メディア表現の新たな活動領域をつくり出しています。また、幅広いメディアをカバーするクリエイターとして、世界各地で様々なコラボレーションを展開するほか、近年には、リサーチや実験などの研究創作スペースを主宰し、メディア技術を用いた実験的な表現を試みる拠点、そして人材や技術が集約されるコミュニティの形成も積極的におこなっています。本展では、「メディア芸術」の大きな魅力のひとつとして、彼らの新作を世界初公開するとともに、これまでの活動や実験プロジェクトの映像上映を通じ、インタラクションと身体が生み出す未来への思考を提示します。



真鍋大度+石橋素「SONIC Floor」
 (北九州イノベーションギャラリー、2007)



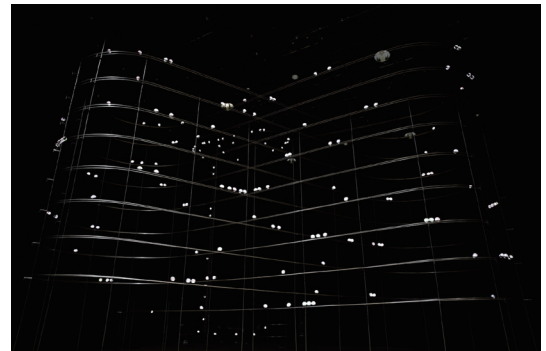
「親子で体験！デジタル×カラダ de ワークショップ」より
 (世田谷パブリックシアター、2009)

展示1

真鍋大度+石橋素「particles」(パーティクルズ)

点滅する光源が空中を浮遊し、幻影的な残像を作り出すイルミネーション・インスタレーション。有機的な螺旋空間構造をもつレールの上を、LED(発光ダイオード/Light Emitting Diode)を内蔵した多数のボールが次々に通過していきます。LEDが様々なタイミングと色彩で発光することにより、光の粒子が浮遊し、空中に多様な形態を描き出します。レールの構造特性と通信制御技術を融合し、光の明滅を3次元空間としてデザインすることで、観客の位置によってもイルミネーションの見え方が変化します。LEDデバイスなどのハードシステムからプログラミングに至るまで、誰もが楽しめるアイデアと緻密な情報技術が融合した最新作です。

新作 2011 | インスタレーション



真鍋大度+石橋素「particles」より(2011)

展示2(関連上映) 映像上映「真鍋大度+石橋素 活動ダイジェスト 2004-2011」

メディア芸術祭にて選出された真鍋大度と石橋素の作品をはじめ、彼らのこれまでの活動と実験プロジェクトの映像を上映します。

展示3(関連上映) 映像上映「文化庁メディア芸術祭ダイジェスト」

アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門の全受賞作品をダイジェスト映像でご覧いただけます。

会期(展示3のみ): 2011年3月5日(土) - 3月31日(木) 10:00-19:00

同時開催 YCAM長期展示シリーズ「scopic measure (スコピック・メジャー)」

YCAMの長期展示シリーズ「scopic measure」では、メディアと人間の関係性から生まれてくるアートシーンに注目し、これから期待されるアーティストの作品やプロジェクトを、これまでに10作品紹介してきました。今回は、「文化庁メディア芸術祭巡回企画展」開催にあわせ、真鍋大度による代表的なプロジェクト、さらに真鍋大度+石橋素による体験型のインスタレーション作品を最新バージョンで展示します。

展示4

scopic measure #11

真鍋大度「electric stimulus to face (エレクトリック・スティミュラス・トゥ・フェイス)」

2008 | 映像展示

筋電位センサーと電気刺激デバイスを用いて、意識や感情が生み出す顔の表情でなく、音楽のヴィジュアライザーともいえる「表情」をつくり出す真鍋大度の代表プロジェクト「Face Visualizer」を収録した映像作品。精度の高い筋電位センサーを、顔面に装着し、筋肉が収縮する直前に発生する微弱電流を計測。本プロジェクトでは、サウンドから変換された電気信号の送出により、人間の表情を自動的にコントロールしています。さらに、真鍋は、顔面の「表情」から音楽や映像をつくり出す「Face Instrument」も展開。データと身体の相互関係に着目したパフォーマンスは、世界20都市で実施され、その実験を収録した映像は、YouTubeで160万ビューを達成しています。



真鍋大度「electric stimulus to face」映像より

本プロジェクトの過程と結果をドキュメント映像およびパフォーマンスとして発表した「Face visualizer, instrument, and copy」は、第13回メディア芸術祭アート部門審査委員会推薦作品(優秀作品)として選出されています。

演出/サウンドデザイン/プログラミング/出演: 真鍋大度
筋電位センシング/振動機構開発: 照岡正樹 ハードウェア開発協力: 原田克彦、柳沢知明
サウンドデザイン協力: 澤井妙治、evala 操作協力: 堀宏行 (株式会社ライゾマティクス)
制作協力: 株式会社ライゾマティクス、4nchor5la6

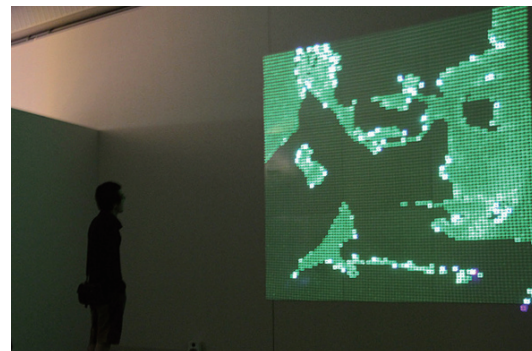
展示5

scopic measure #12

真鍋大度+石橋素「fade out (フェード・アウト)」

2010 | インスタレーション

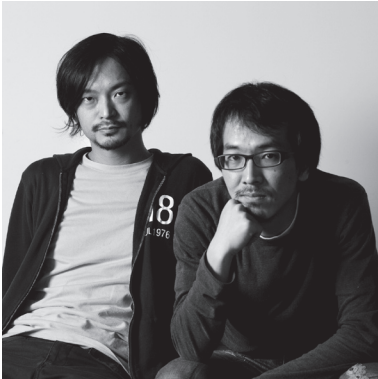
光を蓄えて発光する蓄光シートに、紫外線レーザー光を照射することで、ビデオ映像とは全く異なる光学反応によるポートレートを描く装置。赤外線カメラで撮影された来場者の画像データは、輝度分布が自動解析され、暗い部分から順に壁面の蓄光シートに照射されます。シート上に残る光のグラデーションは、突如ポートレートとして認識され、眼前に浮かび上がってきます。さらに今回は、紫外光を当てると色がつき、光照射を止めると瞬時に元の無色透明に戻る有機化合物「フォトクロミック化合物」を導入した最新バージョンを初公開します。



真鍋大度+石橋素「fade out test」(大分市美術館、2010)

企画: 真鍋大度+株式会社ライゾマティクス コンセプト: 真鍋大度+石橋素
レーザープログラミング: 石橋素 サウンドプログラミング: 真鍋大度
技術協力(最新バージョン): 青山学院大学理工学部化学・生命科学科機能物質化学阿部二郎研究室、
関東化学株式会社、伊藤光学工業株式会社

作家プロフィール



[左]真鍋大度 [右]石橋素

真鍋大度 | Daito Manabe

アーティスト/デザイナー

<http://www.daito.ws/>

1976年東京生まれ。東京理科大学理学部数学科、岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー[AMAS]卒業。振動、超低周波を使用して触覚と聴覚の特殊性、共通性、相互作用をテーマに作品制作をおこない、筋電センサー、低周波発生器を用いたパフォーマンス、実験的なターンテーブルリストとして国内外の様々なアートプロジェクトに参加。2006年株式会社ライゾマティクス設立。ウェブからインタラクティブ・デザインまで幅広いメディアをカバーし、企業やファッションブランドにおける展示システムを企画・制作している。株式会社DGN、「4nchor5 la6 (アンカース・ラボ)」のメンバーでもある。2009年には作品「scoreLight」が、文化庁メディア芸術祭 エンターテインメント部門優秀賞受賞。同年、アルスエレクトロニカフェスティバル デジタルミュージック部門審査員。YCAMでは、UA+内橋和久「path」(2005)、渋谷慶一郎+池上高志「filmachine」(2006)、「true/本当のこと」(2007)など多数の作品制作に参加。2010年には検索ワークショップ「Search'n Search」で講師を務めた。

石橋素 | Motoi Ishibashi

プログラマー/エンジニア/システムデザイナー

<http://www.motoi.ws/>

1975年生まれ。東京工業大学制御システム工学科、岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー[AMAS]卒業。デジタルメディアを使った作品制作を始め、テクノロジーを駆使した新しい遊び、プロトコルをテーマに開発/制作を展開。2006年株式会社DGN設立。企業やファッションブランドのラウンジ、科学館などにおける展示システムの企画・制作において、主にインターフェイスデザイン、デバイス設計、プログラミングを担当している。2008年より研究・制作スペース「4nchor5 la6 (アンカース・ラボ)」を共同主宰し、アート、デザイン、研究、パフォーマンスなど、領域を問わず精力的に制作活動もおこなっている。これまで、数多くの作品が、文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品として選定されている。YCAMでは、YCAM開館記念プロジェクト、ラファエル・ロサノ＝ヘルム「アモーダル・サスペンションー飛ぶかう光のメッセージ」(2003)、「時間旅行」展(2005)、「true/本当のこと」(2007)など多数の作品制作に参加。2010年には検索ワークショップ「Search'n Search」で講師を務めた。

開催概要

真鍋大度+石橋素 新作インスタレーション「particles (パーティクルズ)」

2011年3月5日(土) -5月5日(木・祝) 10:00-19:00 休館日:火曜日(5月3日は開館)

[文化庁メディア芸術祭巡回企画展は、2011年3月5日(土) -31日(木) まで]

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオB、2F ギャラリー 入場無料

関連上映

映像上映「真鍋大度+石橋素 活動ダイジェスト 2004-2011」

映像上映「文化庁メディア芸術祭ダイジェスト」※3月31日(木) まで

関連イベント

専門スタッフとともに作品を巡る「ギャラリーツアー」

3月12日(土)、19日(土)、20日(日)、21日(月・祝)

4月2日(土)、3日(日)、9日(土)、10日(日)、16日(土)、17日(日)

23日(土)、24日(日)、29日(金・祝)、30日(土)

5月1日(日)、3日(火・祝)、4日(水・祝)、5日(木・祝)

[会期中全18回] 各回14:00-15:00 入場無料

※各日開催までにYCAM1Fチケットインフォメーションまでお申し込みください。

主催:財団法人山口市文化振興財団 共催:文化庁 後援:山口市、山口市教育委員会

制作協力:株式会社ライゾマティクス、株式会社DGN 技術協力:YCAM InterLab

企画制作:山口情報芸術センター[YCAM]

※文化庁メディア芸術祭巡回企画展は、3月31日(木)まで。引き続き同展覧会を、財団法人山口市文化振興財団主催で、5月5日(木・祝)まで実施します。

同時開催

YCAM長期展示シリーズ

scopic measure #11

真鍋大度「electric stimulus to face」

scopic measure #12

真鍋大度+石橋素「fade out」

2011年3月5日(土) -5月5日(木・祝) 10:00-19:00

山口情報芸術センター [YCAM] ホワイエ

入場無料

主催:財団法人山口市文化振興財団

後援:山口市、山口市教育委員会

協力:株式会社ライゾマティクス、株式会社DGN、

青山学院大学理工学部化学・生命科学科機能物質化学阿部

二郎研究室、関東化学株式会社、伊藤光学工業株式会社

技術協力:YCAM InterLab

企画制作:山口情報芸術センター [YCAM]